

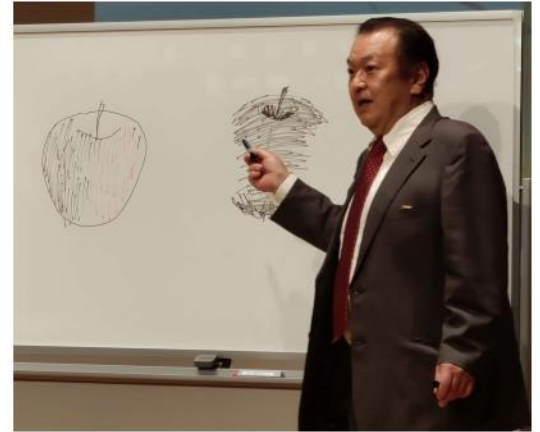
第23回美術講演会「私が絵を描くときに思うこと」

講師：阿曾沼明先生（新制作協会、横浜美術協会）

2023年10月17日(火)シリウスサブホールにて（来場者105人）

先生に初めてお会いしたのは当会の重鎮達と新制作展に伺った時のことだった。大変気さくな方でゆったりとした第一印象。でも先生の画風や泊の貼り方は精緻な印象で御本人とのギャップもあり、講演会ではどんなお話をされるのか興味が湧いた。（今回も先生の許可をいただきノートテイクをしました）

先生は絵画教室をいくつか主催されていらっしゃるのでも色の説明や状況に応じた彩色上の対応などとてもわかり易かった。参加者からは「補色の話、混色と重色の話はしっくりきた」「線で描くのは機械のやり方、というお話が印象に残った」「パンを描く時の色の話は役に立った」「賞の話は納得する所とちょっと意味深な部分もあって面白かった」「調味料的要素の色をもっと知りたい」等様々な感想が聞けた。（中尾調べ）



▲レクチャー中の阿曾沼先生

私の中でとりわけ心に残ったのは「子供の頃の感情の記憶が描く時の根幹となっている」というお話と質疑応答の時に聞いた「自分の絵を変えなきゃと思っているうちはまだそれを描き足りていない」というお話だった。（勿論「形を描く時は真ん中から描く！線に頼らない！」という力強いお言葉も忘れていません）

前者はまさに今回のテーマだったのだが、同じような幼少期を送った者としては共感を覚える一方、普段絵を描いている時に子供の頃の記憶を意識したことは全くないなと思った。でもよく考えてみると自分が好きな青は子供の頃秘密基地にしていた部屋の青だったことに思い当たってしまった。先生がおっしゃるように感性に刷り込まれていたんですね。幼少期の刷り込みは絵を描く人達皆に言える体験かもしれない。（後はそれを大切に制作してるか否かということですね（；^ω^））

そしてもう一つ。ちょうど「今のモチーフはそろそろ変えた方がいいんじゃない？」と考えていた私にとって、先生の「変えたいと思っているうちはまだそれを描き足りていない」という言葉はまるで天啓のような導きの言葉となった。（このありがたい言葉を自分一人で噛みしめるのはもったいないと思い、一線展で仏を描いたことにより大作にピリオドを打とうとしていた菱沼さんに「菱沼さん、まだ描き足りてないよ」と偉そうに説教を垂れる私だった）この「描き足りない」というお話には私と同じようにハッとした方達が結構いらっしまったのではないだろうか。

前回の新聞にも書いたが、先生は今年の大和展にも足を運んでくださった。講演会の導入部でも大和展に触れてくださったが、一地方の小さな展覧会にもリスペクトの念を表してくださり先生のお人柄を感じた。そこで先生がおっしゃった「どっかの会に入ると色が着いてしまうけど大和展では自由な絵が多い。自由に描く環境は大切にそれを誇りに思っていてほしい」という言葉は私達への大きな励ましとなった。

お知らせ

皆さんお待ちかねの総会を来年の1月21日(日)13時30分からシリウス601会議室にて行います。会員の方は年会費10,000円、準会員の方は9,000円をご用意下さい。

案内はがきが届くと思いますが、念には念を入れてお知らせすることにします！

来年も新年会は行わない方向ですが、会員同士交流をしたい方は12月15日(金)の14時から画廊喫茶オルセーでサロンを開きますのでどうぞご参加ください。

第20回 大和市民芸術祭

11月21日(火)～23日(木)シリウスギャラリー

今年の市民芸術祭はコロナの呪縛から解放されワークショップが復活した。我々には「みんなで絵手紙作成」というミッションが課せられた！…多分田宮さんから(笑) このミッションの担当者は田宮さんと渡辺さん。看板作りからモチーフ用意、絵手紙の手ほどきまでお二人でしっかり準備してくれた。(きっと田宮さんは奥様から絵手紙講座の個人教授を受けてきたはず。そして絵手紙と言えば渡辺さん！黄金のペアだった)

皆さんの描かれた作品の裏には送り先の住所を書いていただき作品を展示した後に市から切手を貼って送ってもらうことになっている。なかなか良いアイデアだと思った。

そして今回の絵画出品者は廣川さん、山本さん、澤池さん、石川さん、北島さん、杉山さん、藤本さん、中尾の8名。前島さんから設営責任者を受け継いだ藤本さんが中心となりレイアウトもうまくいった。

この市民芸術祭への参加とまなびの輪の実施は市民への貢献という点で当会の設立趣意にも当てはまる重要な催しだ。あと…大人の事情もちょっとある。(←問合せは中尾まで)

当日参加された皆様、本当にお疲れ様でした！渡辺さん、来年もよろしくお願ひします(≧▽≦)!



▲素晴らしい絵画作品を背景に絵手紙を描く人々と監督中?の渡辺さん



▲皆で立ち上がって気合の入った乾杯

普段私達は一人孤独に苦しみながら絵を描いてるわけだが、たまにはこのように仲間の絵から刺激を受けたり第三者の目でチェックするのも制作にとって良いことなのではないだろうか。ということで、15日のサロンでもまた絵を持ち寄って合評会をしませんか?あくまでも希望者だけなので強制ではありません。

なおこのサロンでは酒ばかり飲みまくっている印象があるかもしれませんが、決してそのようなことはないのですお酒が飲めない方も安心してご参加ください。

第5回まなびの輪・人物デッサン会

10月29日(日) シリウス612号室にて

今年も学習担当の露崎さんを中心に市民のための人物デッサン会を実施した。参加者は23人。アンケートで答えた20名の方々全てに好評で、またやって欲しいという声がかなりあった。またモデルさんが若くて美人だったと言う声も多数あったそうな～(*´∩`*)

〈お問い合わせ先〉 中尾光杜 電話番号 090-6147-2290
メアド mitotan@gmail.com

第11回 サロン・ド・オルセー

講演会明けの10月24日、有山さんの画廊喫茶オルセーで11回目のサロンが開かれた。今回は初参加の方々や一般から2人の素敵なレディー達が出席されたこともありトータルで12名、美女多めの華やいだ会合となった。

予告通り7月の会員研修会で描いたクロッキー作品や個人で描いた作品を持ち寄っての鑑賞会を行ったところ、いつになく盛り上がり、絵描きの集団が如何に饒舌か悟った。

第7回会員研修会

11月29日(水) 泉の森スケッチ

学習担当杉浦さんの仕切りで待望のスケッチ会が晩秋の泉の森で行われた。珠玉の作品群はHPの活動報告にバッチリ載っているのです是非見てほしい!これからも有志でスケッチ会をやってみるのも良いかもしれないと思った次第だ。

発行責任者
大和美術協会会長 田宮 久男